

令和4年(2022年)8月21日

(公財)日本アイスホッケー連盟主催大会

新型コロナウイルス感染症対応マニュアル(有観客版)

新型コロナウイルス感染症が確認されてから早2年が経ちました。ワクチン接種率の向上もあり、一旦は感染状況が落ち着き収束間近と期待されたものの、流行は繰り返され、また新たな変異ウイルスの脅威に晒されております。

このような状況下で、スポーツイベントの開催は、必ずしも社会全体からの賛同、理解を得ていないことを我々関係者は理解することが必要だと思えます。

人間社会の構築・発展において、スポーツは人々の生活を豊かに、幸福にするものとして常にその傍らにあったことも事実です。アイスホッケー大会の開催は、「社会の日常にスポーツという文化を取り戻す」一助になるものと確信いたしますが、大会開催が、新型コロナウイルス感染症の拡大を誘発することは避けなければならぬと考えます。大会に参加・参画するすべての方は、大会を開催するという、社会的な意義とそれに伴う責任を十分に理解の上、国民の信頼を損なわないための自覚と行動をお願いしたいものです。新型コロナウイルスは変異ウイルスとなり我々に脅威を与えています。我々は道連の主催・主管大会で感染者を出さなかったことに胡坐をかくことなく、選手らに感染リスクを高めない競技会を提供できるよう関係するすべての人々が最大限の努力を行うことを求めます。

特に、アイスホッケーが密閉された中でのスポーツであり、アイスリンクの換気改善には限界があり、密集・密着が避けられないスポーツであることを自覚し、マスクを外す時間を最小限にする、適切な不織布マスクの着用推進、ワクチン接種推進、選手関係者の健康状態の把握と記録など選手の安全性を最優先に計画・実行に当たっていただきたいと考えます。

皆さまはぜひ、新型コロナウイルスに対しての個人防衛をお願いします。選手、チームスタッフ、競技役員、試合運営に携わるすべての皆さま、そのご家族一人一人が、新型コロナウイルスの特性を理解し、感染を予防する行動を取ってください。

「体調が悪いけど、我慢して試合に出よう、ボランティアにいかう、ちょっと試合を観るだけだ」といった行動が、感染を広げてしまう可能性があります。発熱・咳・倦怠感などの症状を認めたら休む勇気を持つこと。そのことをチームに連盟に報告する勇気をもつことを、是非お願いいたします。またファンの皆さまにも、観戦にあたって、発熱・咳・倦怠感などの症状を認めた場合にはアリーナに行かない、という文化の醸成が求められています。こうした個人防衛と集団防衛を通じて、社会防衛に貢献していきましょう。

まず、「新型コロナウイルスの感染防止に関する大会等の実施基準」(日本アイスホッケー連盟ホームページ参照)を土台に、下記のことを基本にコロナウイルスにうち勝つ工夫をしていきましょう。

※【 】内の対象者は、特に注意してください。

1. 新型コロナウイルス感染症の感染経路は3つ【全員】
 - (1) 飛沫感染（咳・くしゃみ、おしゃべりによる感染）
 - (2) 接触感染（手、肌で触れることによる感染）
 - (3) エアロゾル感染（空気中に浮遊するウイルスを含むエアロゾルを吸い込むことによる感染）
2. 一般的な予防方法【全員】
 - (1) 「3つの密（密閉、密集、密接）」を避ける。
 - (2) 手洗いと咳エチケットに心がける。
 - (3) よくフィットした不織布製マスクを着用すること。(JIS規格適合マスクを推奨する。)
 - (4) 口・鼻・目に不用意に触れない。
 - (5) 規則正しい生活とバランスの取れた食事に心がける。
 - (6) 予防接種可能な方は機会が与えられたらワクチンを接種すること。
3. 感染を注意すべき関係者【全員】
 - (1) 選手、チームスタッフ、およびその家族・同居人
 - (2) スタッフ：大会役員、競技役員、およびその家族・同居人
 - (3) アリーナスタッフやトレーニング施設スタッフ
 - (4) 試合運営に関わるボランティア、警備スタッフ、売店スタッフ、清掃スタッフ
 - (5) チームバスの運転手
 - (6) メディア
 - (7) ファン・観客…別添「アイスアリーナでの試合観戦におけるお願い」参照
4. 観客を除く関係者全員が、毎日の体調と行動を記録する。【観客を除く全員】
 - (1) 1週間前からの**健康チェックシート**を試合日に大会本部に提出する。(付属文書2)
 - ① 体温測定：起床直後の体温記録・検温時間を毎日記録する。
 - ② 問診欄チェック：倦怠感、咳、咽頭痛、食欲低下の有無などのチェックをする。
 - (2) 健康チェックでは、前日の確認以降の状況を報告すること。日々の健康チェックに加え、体調不良者が出た場合、数時間後に改善したとしても、直ちに大会事務局に一報を入れる。(大会事務局は体調不良者に対して、抗原検査等の実施を求める。)
 - (3) 提出された健康チェックシートに問題がないことを確認すること。異常や空欄があれば、感染防止対策責任者が健康チェックシートの記載内容を確認の上、入場の可否を判断すること。
 - (4) 監督（スタッフ）は、選手の健康状態、行動内容を常に把握管理し、大会終了1週間後のチームの新型コロナウイルス感染症の状況を日ア連事務局に提出する。
(付属文書4：新型コロナウイルス感染症発症状況等報告書)
 - (5) コロナ下でアイスホッケーを継続するために、毎日の行動記録が極めて重要である。：
買い物、会食、戸外でのトレーニング等、出向いた場所・同行者などの毎日の行動メ

モを残す。(付属文書3)

特に、感染が起きた時に、当事者以外で誰を隔離すべきか、判断する材料になる。

- ① 保健所にすぐに提出することで、濃厚接触者の指定に協力する。
- ② 感染リスクのある行動をとったかどうかを記録する。ポイントとなるのは、食事のとり方、家族同居人以外とのマスクなし会話の有無、外出の有無、地域を越えての移動の有無などである。

5. 日ア連主催大会は、一部を除き、当面、有観客試合としますが、感染状況により変更する場合があります。【全員】

- (1) 観客を除く関係者全員を対象に、スクリーニング検査を実施する。
- (2) 選手として出場する場合、競技主管連盟に**同意書**を提出する。未成年者は必ず保護者からの承諾を提出する。(一定の感染リスクがあることを承知した上で参加することを承諾)

6. 大会前の練習等について【選手、チームスタッフ】

- (1) 大会開始日の1週間まえからは対外チームとの合同練習や試合を行わない。
- (2) 大会期間中だけでなく1週間まえから外部(他チームやOB、友人、知人等)との接触を控える。

7. 試合前後のトレーニングでの全般的注意事項【選手、チームスタッフ】

- (1) 人と人の接触を減らす。チーム全体ではなく、グループ単位で行う。
(グループを記録に残す)
- (2) 共通のモノを通じた接触を減らしこまめに消毒する。タオル・ウオータボトル・防具・スティックなど
- (3) 全員が感染防止マナーを守る。
 - ① 社会的距離(できるだけ2m、最低1m)
 - ② 咳エチケット(不織布のマスク着用を含む)
 - ③ 手洗い、手指消毒(70-80%アルコール)
 - ④ 不用意に自分の顔、とくに目・鼻・口などの粘膜に触れない。
 - ⑤ 握手、ハイタッチ、抱擁など物理的な接触は禁止する。
 - ⑥ 唾吐きや不要な会話、大声を避ける。
 - ⑦ 控室、トイレなどのドアノブはこまめに消毒する。
- (4) 自動車利用者は、可能な限り着替えは自宅や宿泊施設で済ませ来場する。

8. 練習前後のミーティング【選手、チームスタッフ】

- (1) ビデオミーティングで済ませるようにする。
- (2) 実施する場合は屋外で、短時間で実施。よくフィットした不織布製マスクを着用。社会的距離(できるだけ2m、最低1m)をとる。
- (3) トレーナーの選手対応はよくフィットした不織布製マスク・手指消毒など標準予防策をとる。

(4) 各トレーナーが一つのグループに対応することが望ましいが、チーム事情を勘案する。

9. 試合開始直前【選手、チームスタッフ、大会役員、競技役員】

(1) ブルーラインの整列は社会的距離（最低 1m）をとる。

(2) 試合開始直前に行うレフェリーからの注意は試合前に行う。

① ビデオミーティングで済ませることを推奨する。

② 実施する場合は屋外で、短時間で実施。よくフィットした不織布製マスクを着用。
社会的距離（できるだけ 2m、最低 1m）をとる。手指消毒など標準予防策をとる。

③ ホームチームを決める必要のある場合も事前に決めておく。

(3) 試合開始に先立ち行う挨拶

① レフェリーとの接触を避ける。握手せず社会的距離をとって礼のみ

② 相手チームスタッフとの接触を避ける。レフェリーも同様

(4) 試合前に行う円陣は小さくならないように配慮。エアータッチなどの工夫で接触を避ける。

(5) GK のウオータボトル等は、自分で設置、移動することに心がける。

10. 試合中【選手、チームスタッフ】

(1) ベンチ内は社会的距離を意識し、向かい合わないなど工夫する。

(2) 選手以外のスタッフはよくフィットした不織布製マスク・手指消毒など標準予防策をとること。

(3) あごマスク等を含めマスクを外した場合は、懲戒の対象になる。

(4) 選手・スタッフは、ベンチ内では飛沫感染防止のため、大声を出さない。（ペナルティ対象）

(5) 唾吐きやいったん口に含んだ水などを吐きだす行為は禁止する。（ペナルティ対象）

(6) タオル、飲水ボトル等を共用しない。（個人の物は、個人で運ぶ=スティックなど）

(7) ベンチ内の選手は交代選手・ドアマンを除き着席すること。

11. 休憩時【選手、チームスタッフ、大会役員、競技役員】

(1) 控室内でも社会的距離（できるだけ 2m、最低 1m）を確保し、人数制限があるところは、それを守る。

① 空いている部屋があれば追加の控室として利用できるよう割り当てる。

② 空きの部屋もなく社会的距離を確保できない場合には、ベンチ裏や観客席等も視野に工夫する。（控室以外で着替える必要がある場合、監督スタッフは、その選手が他チームと接することが無いよう、特段の配慮を行う）

(2) 選手及びスタッフはよくフィットした不織布製マスク・手指消毒など標準予防策をとること。

(3) 選手への指示は飛沫感染を意識して短時間に、大声を出さないなど工夫する。

(4) 控室の滞在時間を、できるだけ減らす。

- (5) 控室使用中は、ドアや窓を開けたままにし、扇風機やサーキュレーターを用いて換気に心がける。控室を離れる際、施錠を忘れずに行う。

12. 試合終了後【選手、チームスタッフ大会役員、競技役員】

- (1) 試合終了後、両チーム分かれてオフィシャルボックスに向かって社会的距離（最低 1m）をとって整列する。
- (2) 表彰のある場合 授与者及び介添人はよくフィットした不織布製マスク・手指消毒など標準予防策をとること。握手を禁止し、写真の撮影はソーシャルディスタンスを配慮して行う。
- (3) 試合結果アナウンス。両方向に向かって礼をしてベンチに戻る。
- (4) レフェリーや相手チームへの挨拶はしない。
- (5) TOTO 等の助成大会は、両チームの選手代表が必要な旗を持ち、写真撮影を行う。
- (6) ベンチに戻った選手から、よくフィットした不織布製マスク着用のうえ所定の場所で、帰る準備を短時間で済ませる。
- (7) シャワールームの利用は感染症対策（密接・密集を避ける。清掃・消毒の徹底。換気を十分にする。）を徹底する。対策が不十分の場合は、自宅や宿泊施設に戻ってからの利用とする。
- (8) 自動車利用者は、可能な限り着替えは自宅や宿泊施設で行い、選手控室（更衣室）では行わない。
- (9) 自宅や宿泊施設に戻ったらヘルメットやグラブ、スティック、スケート靴など他人の飛沫がつきやすい用具の消毒、ジャージやストッキングなどの洗濯を行う。
- (10) 防具の保管・管理は個別に行うこと。

13. 監督会議【チームスタッフ、大会役員、競技役員】

- (1) 監督会議が必要と連盟が判断した場合は Web で行う。
- (2) 通知文書はメールで行うことを原則とする。

14. 練習場・試合会場へのアクセス【選手、チームスタッフ】

- (1) 公共交通機関を利用しないことが、推奨される。
- (2) 自家用車で一人ずつアクセスすることが、推奨される。
- (3) 駐車場でも余裕があれば、離れて駐車することが、推奨される。止むを得ず、複数名で自家用車に乗る場合は、空調、窓開けなどによる換気を最大限行う。
- (4) チームバスを利用する場合には、バス会社への事前の依頼事項を徹底する。
- (5) バス乗車人数を減らし各選手間の距離 1～2m を確保する。
- (6) 着席する際は出来るだけ前後左右に各 1 席の空席を確保し、運行中は移動しない。
- (7) バス内ではよくフィットした不織布製マスクを着用する。
- (8) バス内での飲食は控える。
- (9) 窓を開けて、換気をする。1 時間につき 3 回の換気が推奨される。

- (10) サービスエリア等での休憩時もよくフィットした不織布製マスクを着用し、感染予防に資する行動をとる。
- (11) 乗降時には手指を消毒する。

※ バス会社への事前の依頼事項

- 励行する感染症予防対策ガイドライン等の提示（行政機関、加盟同業団体、自社制作等）
- 利用直前の車内消毒
- 乗務員の体調管理及びマスク、手袋の着用
- 手指消毒液等の車内配備
- 運行中の車内通気・換気の徹底

15. 試合会場への入場【チームスタッフ、大会役員、競技役員】

- (1) 到着時に体温チェックし、37.5 度以上の者は会場への立ち入りを禁止する。
- (2) よくフィットした不織布製マスクを着用すること。（JIS 規格適合マスク又は同等以上の機能を有するマスクを推奨する。）
- (3) マスクを外す時間を最小限にするように留意する。
- (4) 大会役員及び競技役員は、選手及びチームスタッフとの接点をできるだけ少なくする。
- (5) 会場への入場を密にならないようにコントロールする。
- ① 選手・チームスタッフと観客・メディアの導線を分ける。
 - ② 会場内で定められた動線を守ること。

16. 取材に関して【大会役員、競技役員】

- (1) 取材を認める場合下記のような厳格な感染対策をとる。取れない場合は入場を許可しないこともある。
- ① 常時よくフィットした不織布製マスクを着用する。
 - ② 選手・チームスタッフと、報道関係者の導線を分ける。
 - ③ オンライン取材や取材場所を屋外などに限定し、常に社会的距離（できるだけ 2m、最低 1m）をとる。
 - ④ 取材前に体温測定し、37.5 度以上の場合、会場から退去していただく。
 - ⑤ 取材者とその家族・同居者が、直近 14 日間にコロナ感染症の疑い症状（発熱、咳、喉の痛み、だるさ、味覚嗅覚の異常）を起こしていないことを、宣誓する。
 - ⑥ 緊急時の連絡先をご提出いただく。
 - ⑦ 取材は 3 分以内とする。

17. チームの宿泊（宿泊施設への依頼や相談）【選手、チームスタッフ】

- (1) チームの宿泊施設の従業員や利用客との接触を減らすよう工夫する。
- (2) 施設単位またはフロア単位での貸し切りを検討する。
- (3) チーム専用の入口、動線、エレベーター等を設置できないか検討する。

- (4) 食事会場はチーム専用になるよう、検討する。また、入れ替え時に、他のチームなどと交差しないよう宿泊施設に工夫をしていただく。
- (5) チームが使用する部屋は事前に消毒、換気するよう検討する。
- (6) 連泊する場合の客室の清掃は、チームの不在時に清掃、または清掃しないことも選択肢にする。
- (7) 自室以外ではよくフィットした不織布製マスクを着用する。
- (8) その他チームの行動規範
 - ① エレベーターのスイッチや階段の手すりに、素手で触れないようにする。触れたら、すぐに手洗い、消毒する。
 - ② ホテルのサウナ、フィットネスルーム、バー等に立ち入らないようにする。
 - ③ ホテルの浴室は個室のものを使用する。個室に浴室がない場合の浴場の利用にあたっては、チームの専用時間の設定、十分な換気、最小限の会話、短時間利用等の工夫をする。
- (9) 部屋割り
 - ① 部屋割りはできるだけ少人数になるよう配慮し、部屋間の往来禁止を厳守すること。
 - ② 部屋の換気に配慮する。温度 21 度、湿度 50～60%が推奨される。
 - ③ マッサージルーム内を混雑させないように留意する

18. 食事（宿泊施設への依頼や相談）【選手、チームスタッフ】

- (1) 選手の席は 1.5～2m の距離をあける。向かい合わせの配席は不可
- (2) 十分に広い部屋がない場合、グループ分けして食事時間をずらす工夫をする。
- (3) 食事中は黙食とし、食事が済んだ時や会話をする際にはよくフィットした不織布製マスクを着用する。食事時間も長くならないように考慮する。
- (4) 食事は一人ずつ取り分けた状態で用意する。（ビュッフェ形式は可能な限り避ける）。
- (5) 食事中、宿泊施設の方は食事会場に居なことが望ましい。片付けはチームが退出したあとに行う。
- (6) ビュッフェ形式では料理を取る際は、飛沫が大皿に飛ぶことを防ぐため、各人が不織布のマスクを着用し会話を控え、手袋または個人専用トングを使用すること。
- (7) 外食は慎む（家族・同居者との外食は可。）特に 5 人以上の外食はリスクが高い。
- (8) ドアや窓の開閉など換気状況を確認し、換気が不十分と推測された場合、サーキュレーターなどを置いてもらう。

19. 宿泊所内ミーティング【選手、チームスタッフ】

- (1) 可能な限り、ビデオ会議（バーチャル/ミーティング）をご検討する。
- (2) リアルで実施する場合は、部屋の換気に留意する。監督・コーチ、選手が 1.5～2m の距離をとって着席すること。

20. 有観客での試合開催【大会役員、競技役員】

(1) アリーナ内のゾーニング

- ① 観客席の少ない会場においては、出来るだけ観客数を少なくする。
- ② ゾーン分けをし、感染者が出た場合の影響範囲を限定する。
- ③ ベンチの反対側の観客席を優先して使用するようにし、ベンチ側の観客席を使用する場合は前列を使用禁止にするなど配慮する。
- ④ 特に、選手、チームスタッフと接触する人数を最小化する。

(2) 来場者の一覧表を作成する。

- ① 来場時刻、退場時刻を記録する。
- ② 来場者全員の連絡先を把握しておく。
- ③ 密接にならないように座席の配置を工夫する。

21. 新型コロナウイルス感染症対応で必要となる情報【チームスタッフ】

(1) チームでの準備する情報

- ① 参加者名簿（選手、監督、スタッフ）
- ② 大会開始1週間前からのチーム行程（旅程）表
- ③ 宿泊施設の部屋割表
- ④ 参加者（選手、監督、スタッフ）

【会場設営計画のポイント】

施設管理者と相談の上、各リンクの状況に応じ、会場設営計画のポイントに留意する。

特に、各アイスリンクの特徴があるが、共通して、ベンチの密回避と換気が重要ポイントである。リンク内で低層部から十分な量の空気を排出する仕組みの確立や会場内の換気の均一化、十分な換気下での扇風機やサーキュレーターの使用による換気改善及び空気清浄機の使用が望まれる。

動線の設定

- (1) 出入口の数に合わせ、選手・チームスタッフと観客・メディアと役員の導線を分ける。
- (2) 出入口が多ければ、対戦チームが別の出入口になることが望ましい。
- (3) 出入口が少ない場合は、会場への入場を密にならないようにコントロールする。

1. 試合会場への入場

- (1) ソーシャルディスタンスシール貼付
- (2) 非接触型手指消毒器設置・フェースシールド
- (3) 非接触体温測定・フェースシールド
- (4) コミュニケーションシート設置-
- (5) 健康チェックシートの点検・フェースシールド

- (6) 参加者名簿記入
- (7) 不織布マスク確認
- (8) 感染カード観戦者に配布（試合ごとの色分けカード）

2. 控室等設定

(1) 控室での密な状況の回避

- ① 控室の広さに応じた人数制限（控室に掲示）
- ② ソーシャルディスタンス用ベンチシールの貼付

(2) 控室での適切な換気の確保・消毒

- ① 休憩時にチームが使用する場合、ドアや窓を開放する。
- ② 換気扇は常に回す。
- ③ 効果が期待できるサーキュレーターを適切な位置に置き使用する。
- ④ 非接触型手指消毒設置
- ⑤ 控室内トイレにハンドソープ、ペーパータオル設置
- ⑥ チーム交代時に控室内の消毒をする。

(3) プレイヤーズベンチ

- ① 非接触型手指消毒設置
- ② チーム交代時にプレイヤーズボックス内の消毒をする。
- ③ 十分な量の空気のリンク外への排出に配慮する。

(4) オフィシャルスコアキーパーボックス

- ① 透明アクリルパーテーション設置
- ② 非接触型手指消毒設置
- ③ 密集、密接を避け、配置を工夫する。
- ④ 密閉を避け、換気に配慮する。

(5) レフェリー控室

- ① 非接触型手指消毒設置
- ② 換気扇は常に回す
- ③ 効果が期待できるサーキュレーターを適切な位置に置き使用する。
- ④ 室内トイレにハンドソープ、ペーパータオル設置
- ⑤ 密閉を避け、換気に配慮する。

(6) 競技役員室

- ① 非接触型手指消毒設置
- ② 換気扇は常に回す
- ③ サーキュレーター設置
- ④ 透明アクリルパーテーション設置
- ⑤ 密閉を避け、換気に配慮する。

(7) 手洗い場

- ① 手洗い場にはハンドソープを用意する。
- ② ジェットタオルは稼働を停止する。
- ③ ペーパータオルを設置
- ④ 非接触型手指消毒設置
- ⑤ 換気扇は常に回す

(8) 会場内

- ① 会場内の CO2 濃度の確認などを行い、適切な換気（必要に応じ排気）の確保を図る。
- ① 効果が期待できるサーキュレーターをベンチ付近の適切な位置に設置し、競技中使用する。
- ② ピリオド間の大規模な換気をする。
- ③ ソーシャルディスタンス用ベンチシールの貼付

【大会準備にあたっての最重要留意点】

1. 感染防止のための体制整備

- (1) 主催者（運営者）は、大会中に体調不良者、感染（疑い）者が出た際、その後の対応をすぐに相談できる医師あるいは医療機関を確保しておくこと。
- (2) 主催者（運営者）は、大会中、万が一クラスターが発生した場合に備え、大会を開催することを管轄の保健所に事前に連絡を入れて、緊急時の体制を整えておくこと。
- (3) 主催者（運営者）は、「感染防止対策責任者」を選任する。
- (4) チームは「感染防止対策担当者」を選任する。
- (5) 感染防止対策責任者は、チームの感染防止対策担当者と連携し、大会に関わる感染防止を図る。
- (6) 感染防止対策責任者は、開催エリアでの感染状況などを把握し、会場設営開始から撤収に至るまで、感染防止の観点から作業が適切に行われているか、各会場におけるガイドライン、手順に則っているか確認、指導を行い、当日の会場内での感染防止対策の指揮を行う。